

中国新聞社の取材を受けました

中国新聞

The Chugoku Shimbun ONLINE

細胞採取に内視鏡の新型装置導入 岩国医療センター

'10/12/9

岩国市黒磯町の国立病院機構岩国医療センターは、内臓に微細な針を刺して細胞組織を採取し、検査、治療する「超音波内視鏡穿刺（せんし）装置」を導入した。同センターによると、同装置の導入は山口大医学部附属病院（宇部市）、済生会下関総合病院（下関市）に続き山口県内3カ所目という。



装置は、超音波で診断する内視鏡機能に加え、がんなどの疑いがある場合、直径0・6ミリの針で胃を貫き、体内の深部にある膵臓（すいぞう）やリンパ節などの細胞を採取できる穿刺機能がある。膵臓の検査を中心に使い、膵臓がんの確定診断が可能になるという。

先月末に約1500万円で購入、8日から使用を始めた。消化器科の田中彰一医長（48）は「膵臓がんは進行して見つかることが多い。新型装置で早期発見を目指したい」としている。（堀晋也）

【写真説明】 新たに導入した装置で検査する医師

出典：中国新聞社